

平成28年度第1回国有林モニタ― 現地見学会を開催

―企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニタ―制度」を設けています。国有林モニタ―は2年に1度、一般の方々を対象として公募し、2年間の任期中、現地見学会や資料提供を通じて国有林野事業についての理解を深めていただいたうえで、アンケートへの回答や会議での意見交換等の活動を通じ、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしております。東北森林管理局においては、今年4月から2年間、管内5県にお住まいの34名の方に国有林モニタ―としてご就任いただいております。

さて、この度、国有林モニタ―活動の一環として、7月28日（木）に宮城北部森林管理署管内



東北森林管理局及び宮城北部森林管理署の概要説明の様子

有林野事業の根幹をなす「治山事業」をテーマとして、国民の皆様
の安心・安全な暮らしのために重要な災害復旧の取組について現地見学会を開催し、平日の暑い中にも関わらず18名のモニタ―にご参

の国有林において、今年度、1回目の国有林モニタ―現地見学会を開催しました。今回は、国

加いただきました。

当日は、まず、宮城県栗原市荒砥沢地区に移動し、現地で東

北森林管理局企画調整課長が挨拶をした後、企画調整課長、宮城北部森林管理署長より、それぞれ東北森林管理局及び宮城北部森林管理署の概要を説明しました。



荒砥沢地すべりの遠景

続いて、荒砥沢地区、行者滝地区、放森地区の治山工事現場



荒砥沢地区治山工事概要をパネルを用いて説明



行者滝地区治山工事現場及び説明の様子



放森地区治山工事現場を写真も交えて説明



放森地区治山工事現場遠景（のり粹工ほか）

を見学し、平成20年岩手・宮城内陸地震で発生した大規模な地すべりによって滑動した土塊や形成された断崖などがこれ以上滑動したり崩れたりしないよう、栗駒山麓ジオパークとの調整を行いつつ構造物を設置したり植生マットで地山を被覆して安定化させる取組について職員より

説明を行いました。モニターの方から、「作業員の安全をどう確保しているのか」との質問に対し、「斜面の上り下りの際に、安全な通路を設けたり命綱を使用したりすることで作業員の安全を確保している」と職員が回答する等、活発な質疑応答が行われました。

また、モニターの方々から「実際に現場を見ることで理解が深まった」等の感想をいただき、今回の現地見学会を通して、東北森林管理局の国土保全の取り組み等についてより一層理解を深めていただけたのではないかと考えております。今後、モニターの皆様アンケートを実施

し、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただく予定です。ご参加いただきました皆さま、暑い中大変お疲れ様でした。